

日本パペットセラピー学会第 14 回大会大会長ご挨拶

テーマ：「パペットセラピーを通して得たもの、学んだこと」

日時：2020 年 10 月 4 日（日）及び 10 月 11 日（日）

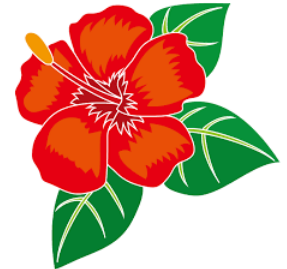
今回の大会はオンラインにて開催します。会場の設定はありません。

大会長：千葉 俊一

（JPTA 理事 歯科医師 親業インストラクター 認定パペットセラピスト）

副大会長：東 義也

（JPTA 理事 尚絅学院大学教授 認定パペットセラピスト）



日本パペットセラピー学会第 14 回大会は、急きよ 2020 年（令和 2 年）10 月 4 日（日）と 10 月 11 日（日）の 2 日に分けてのオンラインによる開催となりました。新型コロナウイルス感染症の蔓延による感染予防の必要性からの変更です。このような新型コロナウイルスの影響が東京での開催を断念せざるを得なくなるとは想像もできず、やむなくオンラインでの開催となりました。参加予定の方々には大変ご心配とご迷惑をおかけすることとなりましたが、できるだけ皆さんが参加しやすくなるように配慮するつもりで準備いたしますので、ご理解とご協力をよろ

しく願います。

私は宮城県での第 10 回大会（東義也大会長）の際、副大会長を務めさせていただきました。当時、東日本大震災もあり宮城県でも多くの被災者が出ました。その中でも種々の発表を踏まえ、多くの会員の応援、共感を得ることができました。これらのことを思い出しながら、今回は、「パペットセラピーの実践を通して得たもの、学んだこと」というタイトルで開催いたします。

日本パペットセラピー学会も一年ごとの大会開催を積み重ね 14 年になりました。この間に、理事をはじめ、多くの会員の方々には、パペットの力を再発見したり、パペットによる治療効果、関係改善効果など多くの効果を知る機会となったことと思います。しかし、セラピーとしてのパペットの活用で素晴らしい結果を得た方も多い中、思うような結果が出ない、継続的に活用する必要を感じながらもなかなか続かないなど、種々問題意識をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。それぞれの思いを持ちながらもそれでもパペットを生かすために前進し続けている方が多いかと思えます。

今回は、14 年間続いた日本パペットセラピー学会の会員相互の理解を深めるとともに、パペットセラピーを通しての社会活動の在り方を考え、さらなる学会の発展につながればと思っております。